

数 学

I

解答

- (1) 1—③ 2・3—①・⑨ 4—② 5—① 6—②
 (2) 7—② 8—③ 9—①

解説

《式の計算，整数部分と小数部分，必要条件・十分条件》

$$\begin{aligned} (1) \quad x+y &= \frac{1}{3-\sqrt{7}} + \frac{1}{3+\sqrt{7}} \\ &= \frac{(3+\sqrt{7})+(3-\sqrt{7})}{(3-\sqrt{7})(3+\sqrt{7})} \\ &= \frac{6}{2} = 3 \rightarrow 1 \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} xy &= \frac{1}{3-\sqrt{7}} \cdot \frac{1}{3+\sqrt{7}} \\ &= \frac{1}{(3-\sqrt{7})(3+\sqrt{7})} = \frac{1}{2} \\ (x-3y)(3x-y) &= 3x^2 - 10xy + 3y^2 \\ &= 3(x+y)^2 - 16xy \\ &= 3 \cdot 3^2 - 16 \cdot \frac{1}{2} = 19 \rightarrow 2, 3 \end{aligned}$$

$$\text{次に, } x = \frac{1}{3-\sqrt{7}} = \frac{3+\sqrt{7}}{(3-\sqrt{7})(3+\sqrt{7})} = \frac{3+\sqrt{7}}{2} \text{ だが, } 2 < \sqrt{7} < 3 \text{ よ}$$

$$\text{り } \frac{5}{2} < \frac{3+\sqrt{7}}{2} < 3 \text{ であるから } x \text{ の整数部分は } 2 \rightarrow 4$$

小数部分は

$$x-2 = \frac{3+\sqrt{7}}{2} - 2$$

$$= \frac{\sqrt{7}-1}{2} \rightarrow 5, 6$$

(2) 命題 $q \implies r$ は偽である。反例 $a=b=1$

命題 $r \implies q$ は真である。なぜなら、 $a=4m$, $b=2n$ (m, n は自然数) と表すと $a+b=2(2m+n)$ より $a+b$ は偶数だからである。

以上より

q は r であるための必要条件であるが、十分条件ではない。 $\rightarrow 7$

命題 $q \implies r$ は偽であるから、その対偶 $\bar{r} \implies \bar{q}$ も偽である。

命題 $r \implies q$ は真であるから、その対偶 $\bar{q} \implies \bar{r}$ も真である。

以上より

$\bar{q}$ は $\bar{r}$ であるための十分条件であるが、必要条件ではない。 $\rightarrow 8$

「 p かつ q 」のとき、 $a=4M$, $a+b=2N$ (M, N は自然数) と表せるので

$$b=2N-a=2N-4M=2(N-2M)$$

であるから b は偶数となる。したがって

命題「 p かつ q 」 $\implies r$ は真である。

r のとき、 $a=4K$, $b=2L$ (K, L は自然数) と表せるので、
 $a+b=2(2K+L)$ は偶数である。したがって

命題 $r \implies$ 「 p かつ q 」は真である。

以上より 「 p かつ q 」は r であるための必要十分条件である。 $\rightarrow 9$

II

解答

(1) 10・11—②・③ 12—⑨

(2) 13—③ 14—②

(3) 15—① 16—⑦ 17—① 18—⑤ 19—② 20—⑤ 21—② 22—⑦

解説

《2次関数の最大・最小，放物線とx軸との共有点》

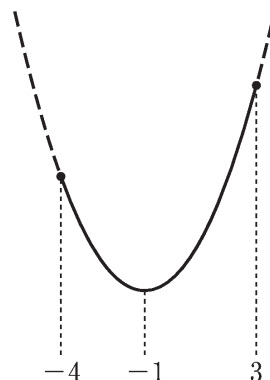
(1) $f(x)=2(x+1)^2-9$ より， $y=f(x)$ の $-4 \leq x \leq 3$ におけるグラフは右図のとおりである。

したがって

最大値は $f(3)=23 \rightarrow 10, 11$

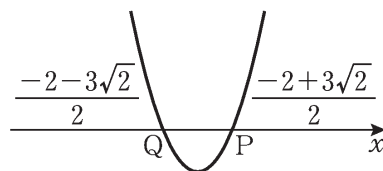
最小値は $f(-1)=-9 \rightarrow 12$

(2) $f(x)=0$ の解は



$$x = \frac{-2 \pm \sqrt{(-2)^2 - 2 \cdot (-7)}}{2}$$

$$= \frac{-2 \pm 3\sqrt{2}}{2}$$



であり，これらが P, Q の x 座標である。したがって，線分 PQ の長さは

$$PQ = \frac{-2+3\sqrt{2}}{2} - \frac{-2-3\sqrt{2}}{2}$$

$$= 3\sqrt{2} \rightarrow 13, 14$$

(3) $y=g(x)$ のグラフの頂点の座標は $(-1+a, -9+(a+2))$
すなわち $(-1+a, a-7)$

したがって

$$g(x) = 2\{x - (-1+a)\}^2 + a - 7$$

$$= 2(x+1-a)^2 + a - 7 \rightarrow 15, 16$$

$$g(0) = 2(1-a)^2 + a - 7$$

$$= 2a^2 - 3a - 5$$

$$= (a+1)(2a-5)$$

より， $g(0) > 0$ となるのは

$$a < -1, \frac{5}{2} < a \rightarrow 17 \sim 19$$

次に， $y=g(x)$ のグラフは下に凸で，軸は直線 $x=a-1$ ，頂点の座標は $(a-1, a-7)$ であるから， x 軸の正の部分と 2 点で交わるのは

(i) 頂点の y 座標 $a-7 < 0$ (ii) 軸について $a-1 > 0$ (iii) $g(0) > 0$

となるときである。

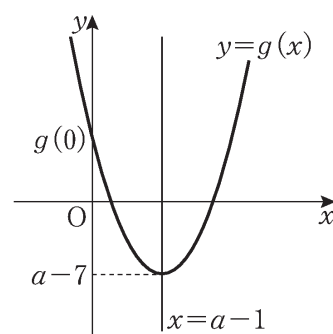
(i) より $a < 7$

(ii) より $a > 1$

(iii) より $a < -1, \frac{5}{2} < a$

であるから，共通部分をとって

$$\frac{5}{2} < a < 7 \rightarrow 20 \sim 22$$



III

解答

(1) 23—⑤ 24—⑨ 25—② 26—②

(2) 27—⑦ 28—⑤ 29—⑦ 30—⑨ 31—⑦

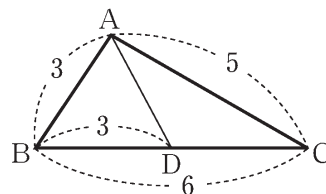
32・33—③・②

解説

《余弦定理，方べきの定理，メネラウスの定理》

(1) $\triangle ABC$ において，余弦定理より

$$\begin{aligned}\cos \angle ABC &= \frac{BA^2 + BC^2 - AC^2}{2 \cdot BA \cdot BC} \\ &= \frac{3^2 + 6^2 - 5^2}{2 \cdot 3 \cdot 6} \\ &= \frac{20}{36} = \frac{5}{9} \rightarrow 23, 24\end{aligned}$$



また

$$BD = \frac{1}{2}BC = 3$$

$\triangle ABD$ において，余弦定理より

$$\begin{aligned}AD^2 &= BA^2 + BD^2 - 2 \cdot BA \cdot BD \cos \angle ABC \\ &= 3^2 + 3^2 - 2 \cdot 3 \cdot 3 \cdot \frac{5}{9} = 8\end{aligned}$$

したがって $AD = \sqrt{8} = 2\sqrt{2} \rightarrow 25, 26$

(2) 方べきの定理より

$$CB \cdot CD = CA \cdot CE$$

$$6 \cdot 3 = 5 \cdot CE \quad CE = \frac{18}{5}$$

よって $AE = CA - CE$

$$= 5 - \frac{18}{5} = \frac{7}{5} \rightarrow 27, 28$$

次に， $\triangle ACD$ と直線 EB についてメネラウスの定理より

$$\frac{AF}{FD} \cdot \frac{DB}{BC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

$$\frac{AF}{FD} \cdot \frac{3}{6} \cdot \frac{18}{7} = 1$$

$$\frac{AF}{FD} = \frac{7}{9} \rightarrow 29, 30$$

以上より

$$\begin{aligned}\triangle ABF &= \frac{7}{9+7} \triangle ABD \\ &= \frac{7}{16} \left(\frac{1}{2} \triangle ABC \right) \\ &= \frac{7}{32} \triangle ABC\end{aligned}$$

よって $(\triangle ABF \text{ の面積}) : (\triangle ABC \text{ の面積}) = 7 : 32 \rightarrow 31 \sim 33$

IV

解答

34—④ 35—③ 36—③ 37—⑤ 38—④ 39—⑤
40—⑧ 41—② 42—⑤ 43—⑤

解説

《2倍角の公式，三角関数の合成，半角の公式》

$\cos 2\theta = 2\cos^2 \theta - 1$, $\sin 2\theta = 2\sin \theta \cos \theta$ より

$$\cos^2 \theta = \frac{1 + \cos 2\theta}{2}, \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{\sin 2\theta}{2}$$

であるから

$$\begin{aligned}f(\theta) &= 6 \left(\frac{1 + \cos 2\theta}{2} \right) + 8 \left(\frac{\sin 2\theta}{2} \right) \\ &= 4\sin 2\theta + 3\cos 2\theta + 3 \rightarrow 34 \sim 36\end{aligned}$$

これは

$$\begin{aligned}f(\theta) &= \sqrt{4^2 + 3^2} \sin(2\theta + \alpha) + 3 \\ &= 5\sin(2\theta + \alpha) + 3 \rightarrow 37\end{aligned}$$

と変形できる。ただし， α は $\sin \alpha = \frac{3}{5}$, $\cos \alpha = \frac{4}{5}$ を満たす，すなわち

$\cos \alpha = \frac{4}{5}$ を満たす鋭角である。 $\rightarrow 38, 39$

ここで θ のとりうる値の範囲は $0 \leq \theta \leq \pi$ であるから

$$\alpha \leq 2\theta + \alpha \leq 2\pi + \alpha$$

より， $\sin(2\theta + \alpha)$ のとりうる値の範囲は

$$-1 \leq \sin(2\theta + \alpha) \leq 1$$

よって， $f(\theta)$ の最大値は $5 + 3 = 8 \rightarrow 40$

このとき， $2\theta + \alpha = \frac{\pi}{2}$ である。このときの $\cos \theta$ について， $2\theta = \frac{\pi}{2} - \alpha$

であることから

$$\cos 2\theta = \cos\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) = \sin \alpha = \frac{3}{5}$$

このとき

$$\cos^2 \theta = \frac{1 + \cos 2\theta}{2} = \frac{1 + \frac{3}{5}}{2} = \frac{4}{5}$$

ここで

$$\theta = \frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2} \quad \text{かつ} \quad 0 < \frac{\alpha}{2} < \frac{\pi}{4}$$

であるから $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$ となるので, $\frac{1}{\sqrt{2}} < \cos \theta < 1$ である。

よって

$$\cos \theta = \sqrt{\frac{4}{5}} = \frac{2}{\sqrt{5}} = \frac{2\sqrt{5}}{5} \rightarrow 41 \sim 43$$

別解 $f(\theta)$ を最大にする θ における $\cos \theta$ の値については, 以下のよう
に求めることもできる。

$$2\theta + \alpha = \frac{\pi}{2} \text{ より, } \theta = \frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2} \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} \cos \theta &= \cos\left(\frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2}\right) \\ &= \cos \frac{\pi}{4} \cos \frac{\alpha}{2} + \sin \frac{\pi}{4} \sin \frac{\alpha}{2} \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}} \left(\cos \frac{\alpha}{2} + \sin \frac{\alpha}{2} \right) \end{aligned}$$

ここで, 半角の公式より

$$\begin{aligned} \cos^2 \frac{\alpha}{2} &= \frac{1 + \cos \alpha}{2} \\ &= \frac{1 + \frac{4}{5}}{2} = \frac{9}{10} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \sin^2 \frac{\alpha}{2} &= \frac{1 - \cos \alpha}{2} \\ &= \frac{1 - \frac{4}{5}}{2} = \frac{1}{10} \end{aligned}$$

α が鋭角より $\frac{\alpha}{2}$ は鋭角であるから $\cos\frac{\alpha}{2} > 0$, $\sin\frac{\alpha}{2} > 0$ である。

したがって

$$\cos\frac{\alpha}{2} = \sqrt{\frac{9}{10}} = \frac{3}{\sqrt{10}}$$

$$\sin\frac{\alpha}{2} = \sqrt{\frac{1}{10}} = \frac{1}{\sqrt{10}}$$

よって

$$\begin{aligned}\cos\theta &= \frac{1}{\sqrt{2}} \left(\frac{3}{\sqrt{10}} + \frac{1}{\sqrt{10}} \right) \\ &= \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{10}} = \frac{2\sqrt{5}}{5}\end{aligned}$$



解答

(1) 44—⑤

(2) 45—①

(3) 46—② 47—② 48—③ 49—⑤ 50—③ 51・52—②・⑩ 53—③

解説

《3次関数のグラフと接線，定積分と面積》

$$\begin{aligned}(1) \quad f'(x) &= 3x^2 - 4x + 1 \\ &= (3x-1)(x-1)\end{aligned}$$

であるから，右の増減表より

$$f(x) \text{ の極小値は } f(1)=5 \rightarrow 44$$

x	...	$\frac{1}{3}$	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	極大	↘	5	↗

(2) $y=f(x)$ のグラフは右図のようになる。

x 軸との共有点の個数は1個であるから， $f(x)=0$ の実数解の個数は 1 個 $\rightarrow 45$

(3) 接点の x 座標を t として，接線の傾きが5であることから

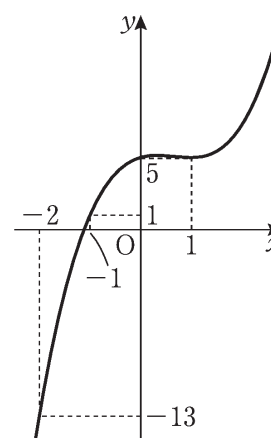
$$f'(t)=5$$

よって

$$3t^2 - 4t + 1 = 5$$

$$3t^2 - 4t - 4 = 0$$

$$(t-2)(3t+2)=0$$



よって $t=2, -\frac{2}{3} \rightarrow 46 \sim 48$

$t=2$ のときを考えて, $f(2)=7$ より, $(2, 7)$ における C の接線 l の傾きは 5 となり, その方程式は

$$y-7=5(x-2)$$

すなわち $y=5x-3 \rightarrow 49, 50$

右図より, 求める面積 S は

$$\begin{aligned} S &= \int_0^2 \{ (x^3 - 2x^2 + x + 5) - (5x - 3) \} dx \\ &= \int_0^2 (x^3 - 2x^2 - 4x + 8) dx \\ &= \left[\frac{1}{4}x^4 - \frac{2}{3}x^3 - 2x^2 + 8x \right]_0^2 \\ &= \left(4 - \frac{16}{3} - 8 + 16 \right) - 0 \\ &= \frac{20}{3} \rightarrow 51 \sim 53 \end{aligned}$$

